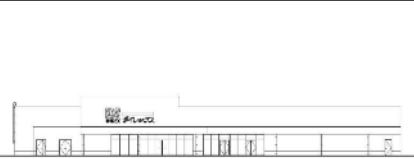


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイレックス東岩槻店新築工事	階数	地上1F
建設地	さいたま市岩槻区東岩槻二丁目1番9, 1番10, 1番11	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、防火指定なし22条区域	平均居住人員	800 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2019年7月26日
敷地面積	4,793 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社埼玉支社
建築面積	2,255 m <sup>2</sup>	確認日	2019年7月29日
延床面積	2,217 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社埼玉支社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	322 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
② 建築物の取組み	69%
③ 上記+②以外の	69%
④ 上記+	69%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

音環境	3.0
温熱環境	3.1
光・視環境	4.0
空気質環境	4.3

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

機能性	2.7
耐用性	2.6
対応性	3.2

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.1
汚染物質回避	3.0

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

地球温暖化への配慮	4.2
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b>	室内環境、温熱環境、空気質環境、エネルギー、資源・マテリアル、敷地外環境を基本に中程度の配慮がなされた設計である。	特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	空調ゾーニング及びゾーン別冷房・暖房の選択可能であり室内環境において配慮された計画がなされている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 室外環境(敷地内)において中程度の取組がなされている。
<b>LR1 エネルギー</b>	エネルギーにおいて建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化において通常の建築より高い性能が確保されている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地外環境において、LCCO <sub>2</sub> 排出率70%、交通負荷抑制の取組、光害の抑制において配慮された設計がなされている。
<b>Q2 サービス性能</b>	サービス性能において、売場の天井高さを3.6m以上確保し広さ感・景観に配慮した設計がなされている。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	資源・マテリアルにおいて、節水型水栓に加え節水型便器の採用、部材の再利用可能性の向上への取り組みなどが配慮された設計がなされている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)ダイレックス東岩槻店新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	-	-		<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35	-	-		<b>3.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50	-	-		
1 室温				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.17	-	-		
3 ゾーン別制御性		空調ゾーニング+ゾーン別に冷房・暖房の選択可能		<b>4.0</b>	0.33	-	-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.0</b>	0.25	-	-		<b>4.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御できリモコンで調整できる。		<b>5.0</b>	0.50	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.3</b>	0.25	-	-		<b>4.3</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全的にF☆☆☆☆建材使用、VOCも放散量の少ない建材を採用。		<b>5.0</b>	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>4.0</b>	0.30	-	-		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		取入口は汚染源のない方位に設け排気口と異なる方位で6m以上離		<b>5.0</b>	0.50	-	-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.7</b>	0.40	-	-		<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	<b>3.0</b>	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高さ3.6m以上。		<b>5.0</b>	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				<b>3.0</b>	0.33	-	-		
3 内装計画				<b>1.0</b>	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>2.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>2.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.6</b>	0.30	-	-		<b>2.6</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>1.4</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
3 電気設備				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				<b>1.0</b>	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1未満	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI][BPIm] ≤ 0.8	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.66	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型水栓に加え節水がた便器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		長尺シート	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+石膏ボード仕上を採用し躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率が70%	<b>4.2</b>	0.33	-	-	<b>4.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の自転車置場の確保、利用者の利便性への配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	